

Neurocognitive profile of euthymic Japanese patients with bipolar disorder

古野, 望

<https://hdl.handle.net/2324/1931772>

出版情報：九州大学, 2017, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

氏 名：古野（旧姓石坂） 望

論 文 名：Neurocognitive profile of euthymic Japanese patients
with bipolar disorder
(寛解期日本人双極性障害患者の認知機能解析)

区 分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

【目的】神経認知機能障害は双極性障害の主要な症候の一つである。MATRICS 統一見解認知機能評価バッテリー (MCCB) は、双極性障害患者の認知機能を評価する標準的な検査バッテリーとなり得る。本研究で、我々は MCCB 日本語版 (MCCB-J) を用いて寛解期における日本人双極性障害患者の認知機能を評価し、その結果を先行研究と比較し報告する。

【方法】MCCB-J で評価した認知機能について、25 名の寛解期双極性障害患者と 53 名の健常対照群を比較した。更に、利用可能な全てのデータベースを検索し、MCCB を用いて双極性障害患者の認知機能を評価した先行研究を同定し、メタ解析を行った。

【結果】寛解期双極性障害患者群と健常群は、MCCB-J 認知ドメイン得点を用いた判別分析により有意に判別可能であった。特に患者群では、視覚学習、社会認知、処理速度、MCCB 総合スコアにおいて、有意な機能低下が認められた。また、先行研究のメタ解析では、双極性障害患者は、MCCB 総合スコアおよび全ての認知ドメインにおける有意な機能低下が認められた。社会認知機能障害は軽度で、顕著であった我々の研究結果とは相違が認められた。

【結論】先行研究と同様に、MCCB-J を用いて寛解期日本人双極性障害患者の認知機能障害を評価することが可能であった。先行研究との間で認められた社会認知機能障害の差異が、日本人の社会状況に対する対処行動に起因するものかを明らかにするために、今後の研究が必要である。